

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

中学校区におけるめざす子ども像	《時を守り 場を清め 礼を正す》	未来の社会の創り手となるために「主体的に考え・行動できる子ども」(地域連携)
-----------------	------------------	--

堺市立 三国丘中学校
校長 吉岡 哲郎

令和6年度 重点目標 【中期目標】「命」を学ぶ ①「総合的な学力」の育成 ②特別支援教育の推進 ③つながる教育の推進 ④学びの機会の確保・えがおあふれる学びの場づくり (堺市学校園運営における方針＝基本施策 1, 6, 7, 8, 11) (令和6年度～令和9年度) 【組織目標】①時を守り 場を清め 礼を正す ②主体的な学びの場の創造 ③授業力・指導力の向上＝教師の専門性(教科指導力)の向上 ④(小中連携)中学校区におけるめざす子ども像の取組・不登校や防災などの取組の推進 (令和6年度)
--

「確かな学び」の現状 全国学力・学習状況調査より、生徒に必要な資質・能力のうち「知識・技能」については、学習に一定の成果が認められる。「思考力・判断力・表現力等」については、課題があり、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図り、主体的・対話的な深い学びの視点からの授業改善が求められる。また、教師の生徒理解能力、コーチングマインドなどの基礎的能力の向上のための研修の充実を図り、学校力アップに繋げる。	「豊かな心・健やかな体」の現状 全国学力・学習状況調査より、「将来の夢や目標を持つ・難しいことでも挑戦する・やり遂げようとする・人が困っているときは進んで助ける」など、個人的な心情・人間性の観点では肯定的である。一方で地域活動への参加など主体的に社会の形成に参画する態度(主権者教育的)の育成について改善が必要であり、令和5年度に若干の取組が始まったが、成果が出るまでには至っていない。具体的に学校行事や生徒会活動の取組、地域と連携した取組を推進し、地域との関りを実感し、未来の社会を創ることができるというマインドの醸成に努める。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	主体的・対話的な深い学びの視点と生徒理解のための資質向上を図る。 ③ 授業力・指導力の向上＝教師の専門性(教科指導力)の向上	●研究授業の実施など、研修体制の充実を図る。 授業中の調べる場面や、意見交換や自分の考えをまとめ、発表する場で ICT 機器を活用する。	研修計画に沿って、複数回の研修を実施する。 発表などの場で ICT 機の活用する場を各学年で年3回以上設定する。	実施状況	年度末	○ 学校全体では1回、各学年でも研修を実施している。 ○ 発表の場として、特別活動(生徒会活動)、授業では、1年の数学・美術、2年の美術・キャリア教育・国語など頻繁に活用している。	○ 研修を年間を通して実施した。教育課程課に選定された「子ども堺学・社会に開かれた教育課程推進校」として取り組みを進めた。(自転車プロジェクト)生徒会活動での ICT 活用が顕著だった。複数のプロジェクトを実施した際にプレゼン(PowePoint)やアンケート(FORMS)を活用。授業での活用には課題が残る。	○ 研修は継続的な取組を期待。(自転車プロジェクト) ○ 堺市内で自転車通学を実施している学校から情報を収集し、実際の課題などについてしっかりと検討しながら、丁寧な取組にしてほしい。また、情報収集活動などにも、生徒が積極的に関わることが望ましい。
	小中一貫	小中一貫カリキュラムの基盤作り(学びの連続性) ① 時を守り 場を清め 礼を正す	●★中学校区の小・中学校の校長を中心に2小1中の教職員内の合意形成を図る。	学期に一回の2小1中の校長会で定期的な意見交換の場を設定する。令和6年度の「めざす子ども像」を共同作成し、共通の目標「時を守り 場を清め 礼を正す」を掲げる。	実施状況	年度末	△ 学期に一回の2小1中の校長会は、開催できているが、2小1中での共通の目標を具体的に現場に反映するまでには至っていない。継続的な取り組みが必要。	△ 本年度は、「中学校校区におけるめざす子ども像」を掲げるにとどまった。令和7年度は、2小1中で具体的かつ共通した取組へ発展させたい。	△ 具体的な取組として、子ども同士の関りを増やす活動の推進が望まれる。特に小学生から中学生への働きかけなど、手立ての工夫がほしい。読み聞かせなど小学校での活動も中学校で導入できないか検討。
豊かな心・健やかな体	学校行事	② 主体的な学びの場の創造	●学校行事など特別活動を、主体的に社会の形成に参画する態度の育成の視点で見直す。教職員・地域・保護者(学校協議会)など共同で進める。	令和9年度までを視野に入れ行事を組み立て、防災教育を中心にしたプログラムの計画と実施。	実施状況	年度末	○ 防災教育を中心とした取り組みとして、2年生の宿泊訓練を舞洲で実施。令和7年度の修学旅行を東京・東北方面、令和8年度も東北方面で計画するなど防災教育を中心とした取り組みが進んでいる。	○ 多数の防災を中心とした取組を実施できた。2つの市教委の支援プロジェクトの活用や各学年での防災関連の校外学習・校内での研修など取り組むことが出来た。	○ 今年度の取組を、来年度は更に深化させてほしい。
	小中一貫	④ 中学校区におけるめざす子ども像の取組・不登校や防災などの取組の推進	●★不登校の課題の取組ついて、中学校区の校長・担当者を中心に学校群の教職員内の合意形成を図る。	学期に一回の定期的な意見交換の場を設定し、小中合同の関連したテーマの夏季研修を実施し状況改善を図る。	実施状況 及び 年度末の結果報告	年度末	○ 7月に不登校の課題の取組として、「特性のある子どもたちへの理解と接し方」の研修を2小1中で実施。	× 不登校数(30日以上)の欠席)は、前年と同数。状況の改善はできていない。	× 評価指標を不登校数削減から、不登校生徒の状況をより把握し、登校しない状況下での成長や状況改善に変更し、取組こと。
地域連携	信頼される学校づくり	④(小中連携)中学校区における 不登校や防災などの取組の推進	●★青少年健全育成会の活動を再開し、一人ひとりの個性が尊重された居場所づくりを地域と協働して進める。	令和2年まで実施していた三丘フェスタを防災の取組に位置付けて実施する。	実施状況	年度末	○ 青少年健全育成協議会(総会)を開催。規約の見直しと今年度の活動について協議する。今年度中の映画上映会(防災関連)を決定。	○ 4年ぶりの青少年健全育成会の活動再開を「防災」を中心に一歩踏み出すことが出来た。3月2日、映画上映会を実施。	○ 来年度は、小中学生がともに参加できる取組の計画が必要。防災の観点では、着衣泳など実践的な活動も期待したい。
働き方改革		子どもたちと向き合える時間・余裕を確保するため、教師自らが主体的に教育活動を創造しコントロールできる環境をつくる。	教育課程内の業務内容を見直し、教育課程外の部活動の在り方を検討。	勤務時間外在校等時間を対前年度比で減少させる。	実施状況	年度末	○ 9月までの勤務時間外在校等時間は対前年比でいずれも減少している。	○ 対前年比 4月(95%)5月(94%)6月(90%)7月(77%)8月(72%)9月(67%)10月(94%)11月(83%)12月(76%)1月(82%)	○ 教育活動の取舍選択を進め、本校に適した活動に注力するため、生徒の意見も訊くなどの手法を取り入れるなど、納得感のある業務改善を進めることが望まれる。
校長より(年度末) IC 活用 ：生徒会活動での ICT 活用が顕著だった。複数のプロジェクトを実施した際にプレゼン(PowePoint)やアンケート(FORMS)を活用した。授業での活用は課題。 学校群 ：本年度は、「中学校校区におけるめざす子ども像」を掲げるにとどまった。令和7年度は、2小1中で具体的かつ共通した取組へ発展させたい。 防災教育の取組 ：2つの市教委の支援プロジェクトや各学年での防災関連の校外学習・校内での研修など取り組むことが出来た。 青少年健全育成協議会 ：4年ぶりの活動再開を「防災」を中心に一歩踏み出すことが出来た。3月2日、映画・上映会を実施。 職場環境 ：勤務時間外在校時間は通年で対前年比で減少した。全ての項目を継続的に取組。								学校関係者評価者から(年度末) 防災教育では、多数の取組をしており、評価できる。一方で小中連携や不登校の取組については、児童生徒間の交流や具体的な活動に乏しく、より工夫した手立てを打つことで状況の改善を図ってほしい。不登校については、特に評価指標の見直しを望む。	